

## 2011 夏休みこどもキャンプ in 白子を終えて

今年のキャンプについては当初、震災の影響で参加者が集まるかどうか正直、心配ではありました。しかしながら早くから期待される保護者の方も多かったので、「少人数でもやりましょう」ということになり結果として36名、昨年の記録的参加者数からはかなり減ったものの例年よりも多い参加者でした。ご心配の点もあったかと思いますがご参加いただきありがとうございました。

(ちなみに、海水浴客の宿泊は激減だそうです。ホテルオーナー談)

今年は雨天と重なったため、夜の大イベントである花火と肝試し&宝探しが中止となり、室内イベントに変更になりました。昨年の参加者はとても残念がりましたが、チーム対抗のイベントなどで盛り上がり、就寝が少し遅れてしまうほどでした。昼間のイベントについてはインドアコート(バス移動)でしたので雨に濡れることも一切なく、レジャーテニス客も少なかったためゆったり使えました。

今年は5チームに分かれましたが、例年に比べ比較的年齢層が低かったのでリーダーが5年生というチームも生まれました。しかしながら各チームともリーダー副リーダーの指示が良いのか、行動が早く役割分担もはっきりしていて、各進行がスムーズで我々スタッフのイライラなどはほとんどありませんでした。あるチームでは点呼報告係が2年生であったため、「〇〇チーム7人みんな集まって、全員集合しました」のように少し噛みながら、毎回直立不動の緊張した面持ちでの報告が我々には微笑ましくも頼もしく感じました。

食事に関しては、毎年ながらショックを受けております。完食できたのは全144食中延べ14食程度にとどまり低学年が多いとはいえ、こども向けのメニューと量に対してとっても食が細いといえます。特に野菜に全く手を付けられない子供や80~90%も残してしまう子供たちも多く今後の不安が強くなります。体力勝負のスポーツではやはり食が細いと勝ちきれないですし、野菜がダメな選手は体力的にもメンタル的にもスタミナという点では長時間持ちません。30年も子供を指導していれば野菜が好きかどうかはスタミナを見ているだけでほぼわかるくらいははっきりしています。スタミナに肉は関係ないような気がしています。

今回のキャンプで子供たち各自が立てた目標は、ほとんどが「できた」あるいは「〇」でした。2日間だけでしたが、立てた目標を「できた」で終わることはとても重要で、この繰り返しが自信・セルフイメージの向上につながっていくのだと思っています。また、感謝の言葉を大変多く聞くことができました。幾人かの子供の明らかな変化をスタッフたちが述べています。変化がすぐに表に出ない子供たちにもこの経験は潜在意識の中に残っており、いつか機が熟したとき、また何かの判断の時に必ず役立つものと確信しております。

最後に、お子様と我々スタッフを信じて送り出していただきましたご家族の皆様にご心より感謝を申し上げます。

KCJTA 校長 宇都宮 英士